

# まほろばだより

第47号

## Contents

- Information 1 第13回女性研究者学術研究奨励賞募集
- Information 2 令和6年度上半期研究支援員配置希望者募集
- Report 1 令和5年度「女性に対する暴力をなくす運動」
- Report 2 令和5年度「女性医師支援・ドクターバンク連携 近畿ブロック会議」
- Report 3 研究支援員配置制度利用者の声(11)

Information  
1

## 第13回女性研究者学術研究奨励賞を募集中です 【令和6年1月31日(水)正午締め切り】

本学では、優れた研究成果を挙げた本学の女性研究者に対してその研究意欲を高め、将来の学術研究を担う優秀な女性研究者の育成及びこれによる男女共同参画の促進等に資することを目的に、女性研究者学術研究奨励賞を授与しています。

対象者は、**医学科・看護学科の教員(教授を除く)、博士研究員、特別研究員、大学院生又は医員の女性研究者**です。

第13回女性研究者学術研究奨励賞の募集に関するお知らせは、12月上旬に全教職員へ一斉メールでご案内しています。

また、当センターHPでも募集に関するお知らせを掲載していますので参考にしてください。多くの女性研究者のご応募をお待ちしています。

<https://josei.naramed-u.ac.jp/activity/training/index.html>

当センターHP/女性研究者育成▶



Information  
2

## 令和6年度上半期研究支援員配置希望者を募集します

当センターでは、子育てや介護、不妊治療といったライフイベントにより研究時間が十分に確保できない女性研究者・医師(常勤の女性教員、診療助教、研究助教及び病院助教)に対し、研究支援員を配置しています。**令和5年度は、基礎医学系教員2名、臨床医学系教員10名、診療助教2名の合計14名の女性研究者・医師が本制度を利用しています。**平成23年度以降、これまでに基礎・教養教育部門5名、臨床医学部門17名、看護学科5名の合計27名の女性研究者・医師が介護(1名)、不妊治療(1名)、妊娠・出産・育児(25名)を理由に本制度を利用し、各分野でキャリア向上を果たしています。

令和6年度上半期(令和6年4月～令和6年9月)の希望者募集については、1月中旬に学内一斉メール・学内専用HPなどからご案内予定です。制度の利用を新たに検討されている方は、まずは女性研究者・医師支援センター 須崎康恵マネージャー(内線2525)までお問い合わせください。

<https://josei.naramed-u.ac.jp/activity/support/placement/index.html>

当センターHP/研究支援員配置▶



# 令和5年度「女性に対する暴力をなくす運動」

「女性に対する暴力をなくす運動」が、内閣府その他の男女共同参画推進本部構成府省庁の主唱により、毎年11月12日から11月25日（「女性に対する暴力撤廃国際日」）まで全国で実施されています。本年度は、女性研究者・医師支援センターが主体となって、大学および病院内の14箇所にポスター（図1）を掲示しました。ポスターには性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センター等が明記されており、DVや性暴力に関する相談窓口の周知を図りました。

図1 令和5年度ポスター

心を傷つけることも暴力です。ひとりで抱えず、最初の一步を。

いつも家で怒鳴られて...毎日つらいです。  
おつらいですね。殴る・蹴るがなくても、暴力です。精神的暴力になります。  
私が悪いと思ってました...  
あなたは悪くありませんよ。  
恋人がたまに怖くて...こんなことも相談できますか？  
もちろんです。恋人とのこと、話してください。  
部活の先輩がノリで身体を触ってきます。いやだと言いにくくて...  
いやだと思ふことをされるのはつらいですね。  
どうしたらよいか一緒に考えましょう。

DVや性暴力で悩んでいる方へ 年齢・性別を問わず、相談できます。

性犯罪・性暴力	配偶者・交際相手からの暴力
内閣府 性暴力被害者支援センター 0570-070-810 #8891	内閣府 DV相談ナビ 0570-090911 #8103
東京都 性暴力被害者支援センター 03-3588-1111 #8103	東京都 DV相談ナビ 03-3588-1111 #8008

11月12日～25日は「女性に対する暴力をなくす運動」期間です。

それぞれの相談先では、あなたの気持ちを最優先に、何が出来るか一緒に考えます。  
プライバシーも秘密もしっかり守られますので、安心して相談してください。

相談先	参考情報
DV相談ナビ #8008 DV相談プラス 0120-279-889	性暴力被害者支援センター 性暴力被害者支援センター 性暴力被害者支援センター
性犯罪・性暴力 性暴力被害者支援センター Cure time(キュアタイム)	性暴力被害者支援センター 性暴力被害者支援センター 性暴力被害者支援センター
AV出演被害者 性暴力被害者支援センター 0570-070-810	性暴力被害者支援センター 性暴力被害者支援センター 性暴力被害者支援センター
性犯罪に係る被害者 性暴力被害者支援センター 0570-070-810	性暴力被害者支援センター 性暴力被害者支援センター 性暴力被害者支援センター
売春誘いや人身取引 性暴力被害者支援センター 0570-070-810	性暴力被害者支援センター 性暴力被害者支援センター 性暴力被害者支援センター
ストーカー行為の被害 性暴力被害者支援センター 0570-070-810	性暴力被害者支援センター 性暴力被害者支援センター 性暴力被害者支援センター
職場におけるセクシュアルハラスメント 性暴力被害者支援センター 0570-070-810	性暴力被害者支援センター 性暴力被害者支援センター 性暴力被害者支援センター

◆人権侵害に関する相談  
 文部科学省 人権ホットライン(相談専用) 0570-070-810  
 外国人労働者に対する人権侵害相談センター(相談専用) 0570-090911

◆法的トラブルに関する相談  
 法テラス 0120-079714  
 法テラス 0120-079714

令和6年4月からは、配偶者暴力防止法に基づく保護命令制度が新しくなります（図2）。今後もセンターでは、女性が被害者となることが多いDVや性暴力に関して情報提供を行い、教職員や学生が安心して働き学ぶことのできる環境整備に取り組んでいきたいと思います。

図2 保護命令制度に関するパンフレット

配偶者暴力防止法に基づく保護命令制度が新しくなります。

令和6年(2024年)4月1日～

重篤な精神的被害を受けた場合にも保護命令の対象が拡大します。

改正のポイント

- 接近禁止命令等について、発令の対象を拡大
- 子への電話等禁止命令の新設
- 保護命令違反に関する罰則の加重(2年以下の拘禁刑\*/200万円以下の罰金)

配偶者や交際相手からの暴力に悩んでいませんか？ひとりで悩まず、相談してください。

配偶者暴力相談支援センター

DV相談ナビ #8008  
 ひとりで悩まず、相談してください。

#8008 に電話をかけると、あなたのご近所にある配偶者暴力相談支援センターにつながります。

配偶者暴力相談支援センターでは、

- 様々な問題についての相談支援やカウンセリング
- 緊急時における安全の確保(一時保護)
- 自立支援や保護命令制度の利用に関する情報の提供や助言
- 警察機関との連携調整その他の援助を行っています。

匿名で相談できます。  
 秘密は守られます。

警察では、

- 配偶者からの暴力の防止にあたり、凶器の没収を要するに際しては、被害者の同意なく没収する権限を有する
- 緊急時における、警察を呼び出すための被害者の同意を要する
- 配偶者に対する保護命令等
- 利用禁止命令、発令、執行、性暴力被害者に対する対応については、被害者の同意を要し、警察に協力した捜査を行います。

#9110 性暴力被害者支援センターに電話をかけると、所属地を支援する警察本部等の連絡窓口につながります。

性暴力被害者支援センターは、性暴力被害者支援センターとして活動しています。性暴力被害者支援センターは、性暴力被害者支援センターとして活動しています。

内閣府 男女共同参画局



## 令和5年度「女性医師支援・ドクターバンク連携 近畿ブロック会議」

公益社団法人日本医師会が主催する令和5年度「女性医師支援・ドクターバンク連携 近畿ブロック会議」が、11月11日(土)に滋賀県で開催されました。奈良県医師会では、女性医師支援の在り方を検討するために男女共同参画推進事業ワーキンググループが本年度結成され、本学からは附属病院副院長の藤本清秀 泌尿器科学教授と女性研究者・医師支援センターの須崎康恵マネージャーがメンバーとして参画しています。近畿ブロック会議には、須崎マネージャーが同メンバーの鉄村信治 奈良県医師会理事と共に出席し、「奈良県立医科大学との連携」と題して発表を行いました。同会議では、日本医師会女性医師支援センターおよび近畿各府県医師会から各々の活動報告がなされ、有益な情報交換の場となりました。

須崎マネージャーが報告した内容の一部を下記に示します。奈良県立医科大学24医局(令和3年度)の同門会に占める女性医師割合は約20%ですが、関連病院等も含めた女性上位職や病院・診療所等の女性開設者の割合は約10%と低い状況です(図1)。このことは、若手女性医師や女子医学生がキャリア形成を考える時、男性と比べて身近なロールモデルとなる同性の先輩が少ないことを意味します。女性研究者・医師支援センターでは、男女共同参画に基づくキャリア教育を充実するために、今後も奈良県医師会と連携して多様な医師を講師に迎えたいと思います。また、令和6年度は、女性医師を対象としたニーズ調査を奈良県医師会と協働で行い、医師、医学生、県民に役立つ女性医師支援について改めて検討する予定です(図2)

図1 奈良県立医科大学24医局の女性医師活躍状況  
(令和3年度厚生労働省女性医療職等の働き方支援事業採択時の調査結果)

医 局	同門会医師数				上 位 職 (※1)				病院・診療所等の開設者			
	男性	女性	合計	女性割合	男性	女性	合計	女性割合	男性	女性	合計	女性割合
12 内科系医局	1,336	419	1,755	23.9%	261	40	301	13.3%	369	56	425	13.2%
12 外科系医局	1,806	360	2,166	16.6%	320	18	338	5.3%	596	57	653	8.7%
24 医局全体	3,142	779	3,921	19.9%	581	58	639	9.1%	965	113	1,078	10.5%

同門会：臨床系教室(医局)に在籍したことのある者ならびに現教室員で主に構成

(単位：人)

※1 医療機関(本学及び他学)の講師以上、研究機関の管理職、関連病院の部長職以上、保健所等行政機関の管理職

図2 令和6年度 奈良県医師会との連携計画

### ①キャリア教育

奈良県医師会所属の女性医師(診療所開設者)に講演を依頼する

- 大学教員では話し難いハラスメント等の辛い経験、解決できなかった職場の課題、仕事と家庭の両立の難しさ、キャリアチェンジに至る経緯等についてオープンに語る講演を企画 “Here I’m Still Standing”
- 講演後、医師の男女共同参画実現のために必要な制度や支援について学生が主体的に考えるグループワークを企画 “In a Better World”

### ②アンケート調査

女性医師を対象としたニーズ調査を奈良県医師会の男女共同参画推進事業ワーキンググループメンバーと協議して実施する

今回は、研究支援員配置制度を約5年間利用された脳神経内科学の齋藤こずえ准教授と杉江和馬教授から利用者の声を届けていただきます。

脳神経内科学教室は、同門会医師数に占める女性の割合が24.8%であるのに対し、過去5年間の入局者の女性割合は33.3%、同じく過去5年間の専門医取得者に占める女性割合も38.1%（令和3年度厚生労働省「女性医療職等の働き方支援事業」調査結果）と、近年女性医師の活躍がめざましい教室です。また、杉江和馬教授のご指導の下で、本年度は在籍教員の競争的資金獲得割合が62.5%と過半数を超える等、診療・教育・研究の分野で多くの先生方が活躍されています。

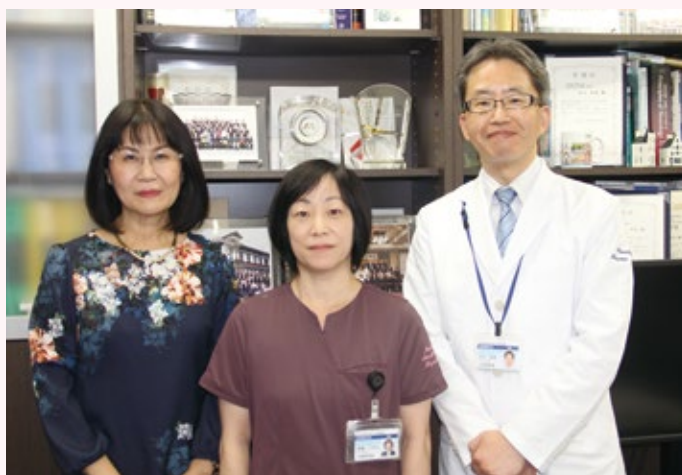
5年間の研究支援員配置制度利用の成果を基に、齋藤こずえ先生が今後益々発展されますことをセンター一同願っております。

### 脳神経内科学 准教授 齋藤 こずえ

2018年2月に国立循環器病研究センターより帰局し、併せて脳卒中センターで脳卒中医療に従事することとなりました。異動と同時に夫が単身赴任したため母子3人の生活となりました。臨床を行いつつ神経超音波の研究に従事するのはかなり困難な環境でしたが、杉江和馬教授のご理解と女性研究者・医師支援センターのご支援を受けて、何とか両方の業務を行うことができるようになりました。研究支援員の黒田春菜さんに、データ収集や資料作成等の補助業務を担っていただき、科研費を獲得することもできました。私の研究は、他学の工学系の先生との共同研究が多いため、連絡調整や資料作成など手続きも煩雑ですが、黒田さんはてきぱきと仕事をこなしてくれるので、大変助かりました。子育て中の女性の働き方は、職場や家庭の環境に大きく左右され、自分だけでは解決できない問題も多いと思います。脳神経内科で女性医師が活躍できているのは、多様な働き方を認めてくださる杉江教授のおかげと深く感謝しております。

### 脳神経内科学 教授／脳卒中センター センター長 杉江 和馬

脳神経内科では、脳卒中の診療と研究は重要な柱の一つです。齋藤こずえ先生は育児と両立させながら、黒田春菜さんの支援のもと、当科での脳卒中における研究成果を世界に向け発信しています。ひとえに、須崎康恵先生をはじめ、女性研究者・医師支援センターの皆様のご尽力のおかげです。心より感謝申し上げます。今後も女性医師が第一線で活躍できるよう当科としても支援して参る所存です。引き続きご指導よろしくお願いたします。



左：須崎マネージャー 中央：齋藤准教授 右：杉江教授



齋藤准教授 研究支援員の黒田さん

#### [編集後記]

女性研究者・医師支援センターは、平成26年に法人予算で運営が開始され10年目となりました。その間、本学の常勤女性医師数および女性教員数は増加し、女性教員の競争的資金獲得割合も当初の約2倍(59.1%)になっております。今後は、女性の教授や准教授等、指導者として多くの女性が活躍できるような取り組みを模索していきたいと思っております。来年もご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

マネージャー 須崎康恵

#### [編集・発行]

奈良県立医科大学 女性研究者・医師支援センター「まほろば」  
〒634-8521 奈良県橿原市四条町840  
奈良県立医科大学 基礎医学棟5階  
TEL: 0744-23-8011(直通)  
0744-22-3051(代) 内線: 2525  
E-mail: jshien@narmed-u.ac.jp

